

令和３年度　松井小学校　学校評価シート

学校教育目標			本年度の重点目標			令和3年度 学校満足度（保護者）	
自他のいのちを大切にし ふるさと多可町を愛し 心身ともに健康で 意欲的に学ぶ子どもの育成			1 深い学びへとつながる対話的な授業の創造 2 自分から聞こえる声で何度でもあいさつする子の育成 3 「ありがとう」の感謝の言葉を 素直に口にする子の育成			学校満足度 ： 3.49 （4段階評価の平均値）	
学校自己評価（達成状況）【 A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】						学校関係者評価	
観点	項目	取組（達成）の状況	評価	総合 評価	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策の適正さの評価	
確かな学力の育成	学習規律の徹底	学習規律や授業を受ける姿勢、基本的な学習習慣が身についているか	3.2	B	学習アンケートを振り返る時間を作り、学校全体で児童の学習に対する意欲等を確認する機会が必要である。文章の内容理解や把握のために、速読・初見での音読を勧めたが、声かけや教材の紹介にとどまった。来年度は、「活字に慣れる」ため、速読週間を設け読書量のアップを図る。また、本を身近なものとするために、学級文庫を定期的に入れ替え、新しい本に触れる機会を多く作るなど、読書環境の整備を行う。	評価及び改善方法は適正である。 読書活動については、図書室の整備を推進してほしい。コロナ禍のため休止している図書ボランティアが活動できるとよい。	
	基礎学力の向上の取組	等、定期的な学習アンケートで振り返りを行い学習集団力の向上にむけ	3.4				
	よりよい授業の展開	取組を進めた。家庭学習の直しを「ていねいに・その日のうちに」行う体制	3.3				
	家庭学習習慣の定着	を整えた。学力テストの課題分析を受け、各学年で重点的に取り組む学習	3.1				
	読書活動の充実	内容を意識した指導を行い、学力の定着を図った。年4回の教員による読み聞かせを行い、読書への意欲付けを行った。	2.9				
豊かな心の育成	道徳実践力の育成	各学級で年間指導計画と児童の実態に即した道徳授業をていねいに実施した。	3.1	B	教育計画・道徳教育計画・別業がリンクした形での指導ができている。特に、単学級で担任一人が多面的に児童を理解していくことが必要で、尚且つ、学年末、年1回の評価となったので、評価の仕方の再考が必要である。道徳実践力をつなげるには、日々の地道な指導が必要である。あいさつの充実に向けて、児童会の取組を計画的に進めさせたい。	評価及び改善方法は適正である。 登下校時、地域住民とのあいさつがしっかりとできるよう、取組を進めてほしい。マスクを付けていることもあるが、地域では、あいさつの声が小さい。	
	教育活動全体を通した指導	毎月第1月曜日には「いのちと人権の集会」を行い、命や人権について考えさせる講話を行った。あいさつの取組は、児童会と生活指導	3.1				
	道徳実践の表出	委員会の両輪で月間目標を設定し、あいさつ運動の取組を進めた。	2.9				
	あいさつ運動の取組						
健やかな体の育成 （体育）	基本的生活習慣の定着	感染状況を見ながら、年間計画を基本とし体育授業を行った。かけ足訓練や縄跳び運動週間を設定し体力向上に努めた。水泳指導は実施していない。運動会は、内容、時期、練習日程等を変更して実施した。	3.3	B	コロナウイルス感染状況を注視しながら、年度当初に作成した年間指導計画の指導内容を、必要に応じて入れ替えて授業を行う。当該学年において児童が身につけなければならない技能や能力を系統的に指導する。	評価及び改善方法は適正である。	
	体育の授業を通した体力・運動能力の向上		3.2				
	体育的活動や行事を通した体力・運動能力の向上		3.1				
健やかな体の育成 （保健）	適切なケガの処置や対応	ケガが発生した際に養護教諭を中心とした適切な対応・処置を行っている。	3.4	B	ケガの未然防止として、遊び方や遊び場所の約束についての指導を年度当初に行うとともに、以後も継続的に行う。講師招聘による食育指導は、新型コロナウイルス感染防止の観点から実施できなかった。動画等の有効活用も含めて、可能な取組を進める。給食指導における感染拡大防止の取組は今後も継続して行う必要がある。	評価及び改善方法は適正である。	
	適切な給食指導	ケガや体調不良等の状況により、速やかに保護者と連絡を取り対応	3.5				
	適切な食育指導	を図っている。保健に関するたよりを作成し、保護者への周知を図った。	2.9				
	健康増進のための家庭への呼びかけ		3.0				
学級経営の充実	学級経営案を生かした学級経営	学級経営案を作成しPDCAサイクルののせ実践している。低・中・高の発達	3.3	B	個々の児童の「自己有用感」、「自尊感情」を育てることが課題である。そのために、それぞれの発達段階に応じた体験学習や学級内での係活動、行事等をととして学級への帰属意識を高める取組を進める。	評価及び改善方法は適正である。 全学年単学級であるが、児童はより良い友だち関係をつくったり、今の環境の中で工夫したりして学校生活を送れているようだ。	
	好ましい学級集団の形成	段階に応じ、各教科、道徳教育、特別活動等、学校活動全体を通し、学	3.2				
	児童理解・実態把握	級集団の育成および、児童理解に努めた。	3.4				
いじめに対する 取組・指導	いじめの未然防止・早期発見	学校生活相談シートは児童用を年間5回、保護者用は学期に1回実施	3.5	B	生活相談シートなどで自分から発信できない児童もいるという視点に立って丁寧な見取りをする。その手立てとして「早期発見のためのチェックリスト」を計画的に活用する。また、いじめをしない・許さない態度の育成のために、学級活動等において「いじめについて正しく理解する授業」を計画的に実施する。	評価及び改善方法は適正である。 自ら苦痛を訴えることの難しい児童への対応として、他の児童からの情報収集などの工夫行ってほしい。子どもへの聞き取りも、一人ずつを基本に、組織的な対応の徹底が大切である。	
	適切な指導	し、いじめの早期発見に努めた。事案発生時には、丁寧な聞き取り及び	3.3				
	いじめをしない心情・態度の育成	適切な指導を基本として対処した。生活相談週間を設け、児童対象の全	3.2				
	いじめを許さない心情・態度の育成	員面談を行った。	3.1				
特別支援教育の充実	保護者との共通理解	個別面談等により、保護者の意向を踏まえた支援・指導を行った。サポー	3.4	B	定期的に保護者と面談することで、児童の実態や支援のあり方について見直す機会となっている。話し合いを行う場ともなり、共通理解できている。SCや外部の専門家からの助言を取り入れた支援方法を今後も継続して行う。引き続きUD視点が必要である。	評価及び改善方法は適正である。	
	個別の指導・支援計画と合理的配慮の適切な実施	トファイルを活用し保護者との連携を図った。SCとの連携を図った。	3.2				
	目的に沿った交流学习の展開		3.2				
防災・安全教育の 充実	適切な防災・安全指導	交通安全教室・避難訓練・防災学習等を通して、自分の命は自分で守ることの重要性を指導した。校内安全点検は、全教員で担当場所を分担して	3.7	A	いつでもどこで起こるか分からない災害時に、児童が自分の命を守るために考えて行動する力を育てる訓練を年間3回、計画的に実施する。実施計画には、実際の災害時に起こると考えられる要素を取り入れて実施する。	評価及び改善方法は適正である。 防災行政無線で、地域の人に児童の下校時刻を知ってもらっているのはよいことである。	
	安全な生活習慣の定着	毎月15日に実施し、学校施設の安全確保を行った。	3.4				
	校内安全点検の実施		3.5				
キャリア教育の推進	身につけさせたい能力・技能を意識した指導	児童個々の目標を設定させ、見通しのある生活態度を養い、学級や児童	2.8	B	来年度は、年度当初に、個々の児童の目標や役割意識について振り返るための資料（キャリアノート）の使い方について検討を行い、活用を推進する。	評価及び改善方法は適正である。	
	役割や責任を持たせた適切な指導	会の役割意識を持たせる指導を行った。	3.0				
ふるさと多可町を愛 する子どもの育成	ふるさと教育の推進	生活科や社会科で地域について知る学習を行い、ふるさと多可町を愛する児童の育成に努めた。3学期には、4年生以上で、多可町ふるさと検定を実施した。	2.6	C	コミュニティ・スクールの導入により、地域の教育資源の活用を進めたい。4年生以上で行う「ふるさと検定」が単発の取組になっている。学年に応じた内容の調べ学習を行うなど、学校としての取組を推進する。	自分の地区の良いところや地名の由来などを調べたり、いろいろなところへ行ったりする活動を行ってはどうか。さらに、お互いの地区のことを発表し合い交流を深めるとよいのではないか。	
環境美化	児童の美化意識の向上	学期に1回「そうじ週間」を実施し、環境委員会でのポスター作成や、放送での呼びかけ等を通して、熱心に取り組む態度が身についた。	3.2	B	日々、熱心に掃除をする児童が多い。さらに、美化意識を高めるために重点的に取り組むポイントを絞るなど、継続的な清掃指導を行っていく。	評価及び改善方法は適正である。	
	校内の環境美化		3.1				
組織力・チーム力の 向上	学校経営方針の周知と同一方向への推進	行事や各領域の指導について、職員会議や職朝・職夕（各週1回）、校務支援システムの活用により共通理解を図り、組織的な指導を進めた。	3.2	B	2学期中頃に学校経営方針の各領域の振り返りを行い、取組状況を確認することで、全職員で学校運営に取り組む意識をより高めていく。	評価及び改善方法は適正である。	
	全教職員の共通理解のもと教育活動の推進		3.4				
開かれた学校・信頼 される学校づくり	学校情報の発信	学校だよりを毎月発信し学校運営状況を発信した。学校での児童の状況を必要に応じて保護者に連絡を行った。保護者からの要望に適切な対応	3.2	A	保護者と担任との連絡体制は整っている。コロナ禍のため、参観授業やオープンスクール等の直接的な公開ができなかった。今後も同様な状況が継続する時は、学校だよりやHPを通した情報公開の工夫や充実が必要である。	評価及び改善方法は適正である。 コロナ禍の学校の情報発信として、参観日・OSの実施以外にタブレットを活用した動画配信等の工夫を行うとよいのではないか。	
	保護者への連絡	を心がけた。	3.8				
	保護者・地域の要望への適切な対応		3.2				
教職員の資質向上	よりよい授業づくりのための教材研究	講師招聘による算数科の授業研究を3回実施した他、音楽・社会・理科の授業研究、特別支援教育に係る研修等を実施した。	3.3	A	今後も授業研究会を計画的に実施するとともに、教科指導以外に生徒指導研修や情報教育研修等を実施する。	評価及び改善方法は適正である。	
	指導力向上に役立つ研修内容		3.5				
教職員の心身の健康 保持	勤務の適正化と定時退勤日の実施	毎週木曜を定時退勤日とし、お互いに呼びかけ等を行い早い時間の退勤	2.9	B	今年度、下校時刻を従来よりも10分繰り上げたが、今後も日課表の見直しを行い勤務の適正化に繋げる。校務分掌は、年度当初に決定をするが、校務分掌検討委員会ならびに職員会議で丁寧に協議をし、適正な振り分けを行う。	評価及び改善方法は適正である。	
	適正な校務分掌の振り分けと協働体制	を心がけた。校務分掌は適正に振り分けを行っており、職員の協働意識	3.1				
	何でも話し合える職員室の雰囲気づくり	も高い。職員室は相談しやすい雰囲気が保てた。	3.6				

※評価の数値は、教職員の４段階評価（４・３・２・１）の平均値を表示している。